

開倫塾ニュース 1 月号御送付の御案内

「ノート」を活用し、学力を身に付けよう
- 開倫塾ニュース 240 号御送付の御案内 -

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：今月号の巻頭言のテーマは、「ノート」の活用についてですね。なぜですか。

A：(林明夫：以下省略。)ものごとを学ぶ上で、「ノート」はとても役立つからです。

先生やいろいろな人の話を聞いて「ノート」を取ることや、自分で学んだことを「ノート」にまとめたり、記録しておくことなど、様々な場面で「ノート」は役立ちます。

社会に出てからも「ノート」は役立ちますから、学校や開倫塾で学ぶ間に「ノート」の活用方法を少しでも身に付けて頂きたいと希望します。

この「塾長通信」にも、私が以前書いたり、ラジオでお話した内容を、「御参考」として、この文章のあとにお載せしてありますので是非お読み下さいね。

Q：12月から来年3月まで、学ぶ上でのポイントは何ですか。

A：(1)受験生の皆様は、これから毎日たくさんの問題練習をします。大事なことは、一度やった問題を必ずもう1回やり直すことです。特に、間違えた問題は繰り返しやり直して、できない問題をなくすこと。これがポイントです。

(2)非受験学年は、来年の2月、3月に行われる学年末テストまでに、今の学年の内容を100%「理解」した上で、100%「定着」させること。「音読」「書き取り」「計算・問題」の「3大練習」が役に立ちます。

(3)この「3大練習」を確実に行うことで、学校の定期テストでは誰でも100点が取れます。偏差値は誰でも60まではいきます。是非、実際にやってみて下さいね。

Q：新聞も読んだほうがよいですか。

A：100年に1回とも言われるような大不況が全世界を襲いつつあります。世の中では何が起きているのか、そのような大不況の中で自分はどう生きていくのかを自分の力で考え、自分の力で生き抜くためにも、新聞を熱心にお読みになることを心からおすすめします。「小学生は20分以上、中学生は40分以上、高校生は60分以上、新聞を毎日読んで考える」能力を身に付けましょう。

12月と1月は、各新聞社がその年の出来事をまとめたり、新年に向けて特集を組みます。じっくりと腰を落ち着けてよく読んでみると、おもしろくてためになる内容がたくさんあります。そこで、今まであまり新聞を読んだことのなかった人も、12月と1月はじっくりと新聞を読み、新聞の素晴らしさを知ることが心からおすすめします。

Q：本も読んだほうがよいですか。

A：今年を振り返り、新しい年を迎えるにあたって、12月と1月は、読み残した本や読んでみたい本を手に取りゆっくりと読んで下さいね。何のために生きるのか、なぜ働くのか、なぜ勉強するのか、何のために上の学校に進学して何を学ぶのかなどについて考えるために、「伝記」を読むこともおススメです。

少し勉強が進んでいる人は、「古典」と「英語の本」に挑戦して下さい。どちらも口の中でブツブツと小さな声で「音読」しながら読むと、どんどん先に進みますよ。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)お陰様で、毎月1回発行のこの「開倫塾ニュース」は、本号で240号になり、20年目を迎えました。私も、少しでも皆様のお役に立てればとの願いから、ほぼ毎月巻頭言を書かせて頂いておりますので感無量です。有難く感謝申し上げます。

今月から「Learning To Learn、ラーニング・トゥ・ラーン(学び方を学ぶ)能力を身に付けよう」を合言葉に、「自己学習能力の育成」をさらに推し進めてまいります。御期待下さい。

(2)申し上げにくいことですが、年末に1つだけお願いがあります。開倫塾では、「お中元」や「お歳暮」、「合格お礼」などどのような名目でも、開倫塾の教職員への贈り物や付け届け、現金等の受け取りはお断りさせて頂いております。お持ち頂いても御返還させて頂くことになりますので、よろしく御理解賜りたくお願い申し上げます。

来年もどうかよろしくお願いいいたします。

御参考

次の文章は、足利市をはじめ両毛地区で発行されていた「みにむ」という月刊誌(現在の「渡良瀬通信」)の「開倫塾の時間」というコラムの内容です。他の内容も、開倫塾のホームページの林明夫のコーナーに載っておりますのでご覧下さい。

月刊誌「みにむ」1993年9月号 開倫塾の時間

「ノート」の作り方を考える －役に立つノート作りの基礎知識－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

学力を身に付ける上で、ノートほど役に立つものはありません。「ノートの作り方」の基礎知識を身に付けることは、学校だけでなく、社会に出てからも一生役に立ちます。「学び方を学ぶ」一つとして、自分なりに「ノートの作り方」を身に付けて下さいね。

- 2.(1) 『何度も読むこと、暗誦すること、さらにいいのは、ゆっくりと、版画家の慎重さで書くこと、立派なノートに、美しい余白を取って文字を書くこと、充実した、均衡のとれた美しい文例を筆写すること、これこそ、思想のための巣をつくる優れた、柔軟体操である。』

以上は、1932年に出版されたフランスのアランの「教育論」からの引用です。ものごとを理解し、それを身に付けるにはどのようにしたらよいか、短い文章でありながら、手際よくまとめられています。今回は、この文章を手がかりに「ノート」の作り方を考えてみましょう。

『何度も読むこと』

本を通じてものごとを理解するには、1回こっきり読んだのでは足りない、何度も何度も読むことをアランはすすめています。ゆっくりと時間をかけ、繰り返し1冊の本(教科書や参考書)と取り組んで下さい。勉強とりわけ学校の勉強のコツの1つは、「深く狭く」に徹し切ることです。

『暗誦すること』

何回も読むだけでは足りません。大事なところ、必要なところは、暗誦つまり見ないでスラスラと言えるまでになることです。学校の教科書程度のことなら全科目とも、定期試験の範囲(つまり授業で教わったところ)ぐらいは、国語も含めて教科書本文と注の全文を暗誦し切っているぐらいが望ましいと言えます。どうしても覚えるのが不得意な科目(つまりあまりよく勉強していない科目)は、定義(とは である。つまり、ことばの意味が書いてある部分。)だけでも覚えることをおすすめします。

注意

(ア)ものごとをやるときは、手順(プロセス)が大事です。何回も読んで、ある程度意味がわかってから暗誦することが大事です。何回か読む前に、つまり意味もわからずに覚えようとしても無理です。たとえ覚えてもすぐに忘れます。十分理解したことを暗誦すること。この順序を忘れてはなりません。

(イ)ついでに言いますが、まとめノート(「サブノート」とも言います)を作り出すのはこのあとです。何回も読み意味が理解できたあとに、全部または大事なところを暗誦する。まとめノートを作るのは、この作業を終えてからに限ります。意味もわからず、大事なことを覚える前にまとめノートを作り出すことは、学習の能率を著しく低下させます。

(ウ)よく、全く白紙の状態からまとめノートを作る人がいますが、まとめノートを作る前にしなければならない作業として、十分何度も読むことと、必要なことを覚えることも是非実行してみてください。おそらく、驚くほどよくものごとが身に付くと信じます。

次は、いよいよ今月のテーマであるノートの取り方です。

『さらにいいのは、ゆっくりと、版画家の慎重さで書くこと、立派なノートに美しい余白を取って文字を書くこと、充実した、均衡のとれた美しい文例を筆写すること』

ノート作りの基本が、見事なまでにまとめられています。ただし、文例を筆写する前にその意味を理解することが先です。

(2) 『きちんとした書体、平均した余白、気に入れば、赤インキで、すっきりとした見出しをつけてノートを作りたまえ。』

P・フリキエ著「公民の倫理」(入門哲学講義、第2編職業上の倫理、第1章生徒の職業的技術、第2手で書くこと)1966年より引用。

アラン先生とフリキエ先生の2人の文章を文字通りよく「理解」した上で、「何度も読み」「暗誦」した上で「ノートに取る」作業をすれば、ノート作りの真髄は身に付くことと信じます。

「ゆっくりと」書くこと、「平均した余白」を十分取ること、「きちんとした書体」で書くこと、「赤インキで見出しをつける」こと。

ノートは、できるだけ大きな文具店に行き、できるだけ良質の用紙の、またデザインのよい、使いやすいものを選ぶべきです。大きな文具店には何十種類(時には何百種類)ものノートが並べられていますので、比較購買(ものを比べながら購入すること)ができます。2~3種類の中から選ぶのと何十種類ものの中から選ぶのでは、ノート1つでも随分と違います。

学校や学習塾という教育機関で学ぶ児童・生徒・学生という職業(仕事)の道具として、ノートは最も大事なものの1つです。いろいろな職人さんが仕事の道具を選ぶのと同じ慎重さで、ノートも選んで下さい。毎日使わなければならないノートに、いくらかの出費が必要だからといってためらっているようではいけないと思います。そのお金は、ゲームソフトや缶ジュースよりも、ずっとよいことに使われるのですから。

筆記用具についても同じことが言えます。最もノートの取りやすい筆記用具を注意深く選んで下さい。最後まで大切に使用すれば、筆記用具は多少値段が高くてもしかたがないと考えるべきです。1～2本は赤やその他の筆記用具も用意すること。アンダーラインやワクを引くための定規も必要です。どうしたら自分自身のノートがよく作れるか、つまり学生としての仕事がよくできるかを考えて、道具選びを十分して下さい。

- (3) くりかえし、くりかえし、作ったノートを読み返すこと。必要なことはあとからどんどん書き加えること。紙を貼り足してでも書き加えること。その学年が終わっても、その学校を卒業しても、一度作ったノートは手放さないこと。学校を出てからも何十回、何百回、何千回と作ったノートを読み、手を加えること。書き足し続けること。

これは私の持論です。大江健三郎の著作に「持続する志」というエッセー集があります。せっかくお父さん、お母さん、保護者の方が自分の生活を切りつめてまでも学校や開倫塾に行かせて下さっているのですから、勉強はそこでやめてもよいということはありません。社会に出てからが本当の勉強です。学校で学んだことは、教科書やノートともども学校においてきたというのなら、何のための学校教育かということになってしまいます。学校の教科書、ノートともに、自分の宝物として場所を決めて保管すべきことは当然です。何百回、何千回も繰り返して教科書やノートを取り出し、勉強を継続することも、自分の志を持続する上で大切です。

まして、在学中は、一度ノートに記入したからそれで勉強したなどと考えることなく、何十回でもノートを読み返して下さい。ものごとを忘れないためには、「記憶の痕跡」を残し「短期記憶」を「長期記憶」にすることが大切です。そのためには、絶えず教科書やノートを昨日勉強した範囲まで1ページから読み返し、「刺激」を与えることが最もよいと考えられます。一度勉強したものごとを100%忘れないためにも、ノートを1ページから昨日勉強したところまで毎日読み返してから、本日の勉強に入ることをおすすめします。

- (4) いろいろな本や雑誌、新聞等を読んで気に入ったところを書き抜く、「書き抜き読書ノート」を作ろう。

これも私の持論です。たとえ1行でもよいから、今読んでいる本や文章の中で気に入ったものがあったら書き留める「書き抜き読書ノート」を作成しましょう。授業用のノートの他に、好きなことを書き込む1、2冊の個人ノートを持つことは、人生を豊かにします。気に入った音楽の譜面を書いたり、詩を書くことも面白い。小説やエッセー、講演会・TVなどで気に入った考えや表現に出合ったら、気軽にまとめて書いてみましょう。自分自身のコメントを少し加えれば、1冊の本の立派な原稿が出来上がります。

3. おわりに

ノートは、このように自分自身の可能性をどんどんふくらませるものです。是非、工夫しながら自分なりの素晴らしいノートを作ってみましょう。

- 2008年11月23日加筆 -

御参考

次の文章は、CRT ラジオ栃木放送『開倫塾の時間』の速記録です。15 年前の内容とあまり変わっていません。基礎的なものの「学び方」というのは、あまり変わらないものだということを御理解頂ければ幸いです。

CRT ラジオ栃木放送『開倫塾の時間』

2008 年 5 月 31 日(土)放送内容速記録

ノートの活用方法を考える - マイノートブックを作ろう -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

今、横浜のほうでアフリカに関する会議がたくさん開かれています。近い中国、インドだけでなく、アフリカをどのように支援したらよいかについてよい勉強になりますので、是非ご関心を持って頂ければ有難いです。

2. ノートの活用方法を考える

今日は、ノートの取り方を皆さんと一緒に考えたいと思います。特に授業中のノートの取り方について、授業中のノートはどのように取ったらよいかという大テーマを考えます。

(1)学校でも、学習塾でも、予備校でも、いろいろな勉強会でも、先生の話す内容を一言も聞きもらさないようにして何から何までノートに取ること、聞いたことをすべてノートに取ることが、ノートを取る上で一番大事であると思います。それから、先生が黒板にお書きになったことをすべてノートに取ることも当然大事です。先生がお話になったこと、お書きになったことは、すべてノートに取ることが大事である。この授業を受けるときの基本を忘れないで下さいね。

なぜ先生の言うことのすべてを、黒板に書いてあることのすべてをノートに取るのか。人間は、見たり聞いたりしたことの大半を忘れてしまうからです。ですから、すべてをノートに記録しておくことは大変大事であると思います。そこに、授業の日付、時間、その日のテーマ、学習項目、教科書の該当ページなどを必ず書いておきます。

何のためにノートを取るのか。手がくたびれてしまうのではないかという話もありますが、授業中に取ったノートは、自分の受けた授業の全記録ですので、授業のあとに上手に活用すれば皆様の人生の宝物になります。ですから、ノートをどのように活用したらよいかを絶えず考えることが大事です。もしかしたら、ノートの活かし方、活用の仕方は、勉強の仕方の中で一番大事かもしれません。

この「開倫塾の時間」では、ずっと勉強の仕方についてお話しています。勉強の仕方の中で一番大事なことの 1 つは、ノートの取り方・活かし方かもしれません。

(2)では、どのようにノートを活用したらよいのか。できれば、授業直後、または授業が終わってしばらくしてから、一人静かにノートをもう一度読み直す。これが大事です。気持ちを落ち着かせて、もう一度授業を受けているような気持ちで、ゆっくりとゆっくりとノートを読み返して下さい。できれば、声を出してゆっくり読むともっとよいと思います。つまり、音読ですね。ノートも教科書も、他の本と同じように何回も、何回も音読されることをおすすめします。

先生の授業で「うんなるほど」とよくわかった・腑(ふ)に落ちたこと、これを私は「理解する」と言っています。先生の授業でよく「理解」できたことが、ノートをゆっくり読むと、特に音読をすると、もっともっとよくわかるようになります。もう一度ノートを読み直すと、よくわかったつもりのことも、もっともっと深くわかるようになります。

(3)それから、もう少し大事なのは、ノートをゆっくり読み直しながら、「ノートを整理すること」です。大事なところに、自分のお気に入りの印を付けたり、あとで読みやすいように項目ごとに番号を付けたり、枠(わく)でくくったりすることも大事です。

「ノート整理」は、何のためにするのか。ノート整理は、授業中に取ったノートを自分自身があとで読みやすい、勉強しやすい本に変身させることを目的とします。私はこれを皆さんにおすすめしたいです。

(4)「ノート」のことを、英語では「ノートブック」と言います。なぜこのように言うのかといえは、英語の「note、ノート」には動詞として使うときには「書き留める」という意味があり、これにブックがつくと、書き留めておいたものを本のように大事に活用するという意味が加わるからだと思います。イギリスをはじめヨーロッパで、大学生はもちろん小学生も中学生も高校生も、あらゆる教育の場で強調されていることは、学校でよく勉強した人は、授業などで学習した内容をすべて「ノートブック」に書き留めて、授業後にその内容を自分なりにノートに整理して、必要なことをつけ加えながら、自分専用の「ノートブック」、つまり「本」を作って、その「ノートブック」を活用して繰り返し繰り返し勉強するということです。これが、ヨーロッパの賢い人の勉強方法です。

賢い人ほど、小学校のときに作ったノートやノートブック、中学校で作ったノートやノートブック、高校で作ったノートやノートブックに自分の力でいろいろなことをつけ加えながら、大学生になっても、社会に出てもそれを活用する。一生涯手放さずに、小学校の「ノートブック」、中学校の「ノートブック」、高校の「ノートブック」を持っていて、宝物のように大切に、大切に活用し続ける。これが、賢い人の勉強方法だと言われています。

3. おわりに

私は、自分で作ったノートブックを第2の教科書といいますが、自分の作った本として一生にわたって活用することを、皆様にも強くおすすめします。このような意味で、これからはノートと呼ばずに、「マイノートブック」とお呼びになって活用して頂ければと思います。

ただ、あまり完璧なノート作りはなさらないほうがよいと思います。勉強する目的がノート作りやノートブック作りになってしまえば、ストレスになってしまいます。これでは本末転倒(ほんまつてんとう)です。どうか人生の楽しみとして、また、自分の「宝物」作りとして、「マイノートブック作り」を一生かけてやって下さいね。

- 8月5日加筆 -

御参考

次の文章も、CRT ラジオ栃木放送『開倫塾の時間』の速記録です。北京オリンピックの最中の放送でしたので、オリンピックに関連して部活動を話題にさせて頂きました。

CRT 栃木放送『開倫塾の時間』

2008年8月23日(土)放送内容速記録

ノートの取り方を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

北京オリンピックは明日まで開催されますが、皆さんどのようにお過ごしでしょうか。

(2)「練習は不可能を可能にする」という、小泉信三さんという慶応大学の塾長を務めていらした方の言葉があります。北島選手のように、練習を一所懸命やったからこそ金メダルを2つも獲れるということになるのです。

「練習は不可能を可能にする」。練習をしなければ金メダルも獲れないし、オリンピックにも出られない。練習をすれば、あらゆる可能性が出てきます。私は、「練習は不可能を可能にする」という言葉が好きです。

(3)私は、中学生の時に足利市立山辺中学校というところで柔道のクラブ活動をしていたのですが、そこで「椎名弘先生」という監督の先生が「練習で泣いて試合で笑え」ということを教えて下さいました。「泣き出したくなるような厳しい練習をした者だけが、試合で勝ち笑うことができる」ということを教わりました。

椎名先生から柔道を教わったチームの多くは、栃木県大会で優勝し、関東大会にまで進出しました。柔道の指導者として素晴らしい先生です。

(4)また、中学校 2、3 年の時のクラス担任の「岡田忠治先生」という先生が「ブルドック魂」つまり「食いついたら離れるな」ということを教えて下さいました。これも、もしかしたらオリンピックの精神に繋がるかもしれません。ちなみに、岡田先生から女子バスケットを教わったり、コーチを受けた方の多くも、県大会で優勝し、関東大会まで出場しました。コーチとしても素晴らしい先生であります。

(5)明日でオリンピックが終わりますので、オリンピックにちなみ、放送の最初に「練習は不可能を可能にする」という言葉と、「練習で泣いて試合で笑え」という話と、それから「ブルドック魂」という話をご紹介させて頂きました。

(6)さて、夏休みも最後です。やはり、成績を上げるためにはノートの取り方がとても大切です。ノートの取り方を工夫して頂きたいので、今日は、ノートの取り方についてお話をさせていただきます。

2. ノートの取り方を考える

(1)小学生でも、中学生でも、高校生でも、大学生でも、大人になっても、社会人になっても、それからリタイアしてからも、大切なことはノートに取って記録しておくことが大切だと思います。そのノートは、どのように取ったらよいのでしょうか。

(2)ノートを乱雑に書いている人は、あまり成績がよくありません。ノートというものは、あとで読み返すことを前提に取らなければいけません。乱雑にノートを取った場合は、あとで読み返せるように「ノート整理」をする必要があります。自分で書いたことを読み返すことが重要です。ノートを取っても、あとで読み返せなければ、勉強はなかなか進まないということになります。

(3)ただ注意したいことは、きれいにノートを取ることが目的になってしまうと、これもまたあまり成績が伸びないということです。ノートを取る目的は、あとで勉強し直すためです。あとでノートを用いて勉強し直し、頭の中を整理するのがノートを取る目的だということを、まず自覚して頂くことが大切だと思います。

(4)開倫塾にノートを持ってこないお子さんはあまりいませんが、ノートを持たずに学校へ行くことや、学習塾に行くこと、勉強する場所に行くことは問題です。ノートを持たずに鉛筆だけ持って行き、テキストに書き込んだり、テキストをコピーしてもってきて、それに書き込んだりするのとは問題です。ノートを用いず、テキストに書き込んでいる人は、頭の中が整理されていない場合が多いようです。したがって、成績も伸びないようです。また、コピーにばかり頼っていると成績は伸びません。是非、ノートは科目ごとに1冊は持って、授業に出るようにして下さい。ノートを持たずに授業に出るのは、武士が刀を持たずに戦いに行くのと同じであります。ノートは是非持って行って下さいね。

(5)それから、当たり前のことですが、時間がかかっても、できるだけ手で書いたほうがよいです。コンピュータ入力をする人がいますが、それは操作が上手な人の話です。コンピュータを持ち歩いて、コンピュータをノート代わりに使うのは、コンピュータの操作がうまい方に限ります。少なくとも、ブラインド・タッチができるように練習しましょう。ちなみに、ブラインド・タッチとは、手元のキー・ボードを見ないでコンピュータ入力ができることを言います。入力スピードが遅いのであれば、普通の紙のノートがよいと思います。

(6)また、ノートの取り方ですが、算数や数学などは計算の途中経過も書いたほうがよいです。答えだけを書いたのでは、あとで使えるノートになりません。必ず問題を書いて、それから答えを書いていったほうがよいです。文章問題も簡単にまとめて必ずノートに書く。途中経過も書いておく。最後に答えも書いておく。このようにしないと、思考能力がなかなか養われません。勉強は何のためにするのかといえば、基礎知識を理解し、それを定着・身に付けるためと、論理的な思考能力を養うためという2つの目的があります。この2つの目的を達成するために、是非ノー

トを大切に使って頂きたいと思います。

(7)それから、算数や数学に関していいますと、イコールなどは上から下まで縦(たて)に、きれいにそろえて書いたほうがよいですね。このことも是非参考にして下さい。

(8)勉強していて、自分がよくわからないところには、「わからないマーク」をつけて下さい。そうすると、効果的な復習や予習ができます。 や×印ではなく、自分自身にしか「わからないマーク」をつけていきますと、問題意識が高まります。是非そのような形でノートを取って下さい。

3. おわりに

今日は夏休みの最後ですので、ノートの取り方についてお話させて頂きました。どうか皆さんも工夫しながら取って下さい。くれぐれもノートは科目ごとに 1 冊お持ち頂けるようお願いいたします。

以上

2008 年 8 月 20 日加筆

御参考

「努力の証(あかし)」 - 第八代国連事務総長 潘基文(バン・ギムン)物語 - から書き抜いたものです。学生時代の勉強の仕方を、御参考までにご覧下さい。

書き抜き読書ノート

「努力の証(あかし)」 - 第八代国連事務総長 潘基文(バン・ギムン)物語 - を読む

ダイヤモンド社 2008年10月9日刊

(1) まだ小学生だったころ、当時のビヨン・ヤンテ外務大臣が全国の小学校をまわって講演したことがあった。

基文(ギムン)が強い印象を受けたのは「一生懸命勉強して、国の役に立つ人間になりなさい」という彼の言葉だった。ビヨン・ヤンテ外務大臣のように外国をあちこち歩きまわりながら祖国のために働く人物がいることに驚いたのだった。

講演会の後に基文は家族や友達に向かって、「ぼくも国のためになる仕事がしたいな」と言うようになった。 P.10-11

(2) 基文(ギムン)にとって勉強が何よりの楽しみだった。 P.15

(3) 彼の動機は「人の自分よりもっと優れた者になりたい」という純粋な向上心だった。

彼にとって、勉強や学問はそれ自体が興味の対象だった。それまで知らなかったことをひとつひとつ、より深く理解できるようになることは、何ものにも比べられない大きな喜びだった。

基文(ギムン)は、(勉強に)集中できる瞬間を逃さないすべを身につけた。

みなぐっすり眠っている夜は、特に集中力が増すように思われた。 P.17

(4) 基文(ギムン)は、他人に認められるために勉強したのではなく、勉強そのものに魅せられ、心を奪われていた。貧しく困難な環境で育ったにもかかわらず、彼は出世を目指して勉強したわけではない。ただ、真心こめて勉強し、そして勉強は彼の真心を裏切らなかった。 P.19

(5) 家計が苦しくなるにつれて長男の基文(ギムン)もこれまでのようにただ勉強だけに熱中しているわけにはいなくなった。家が貧しくなったからといって、勉強を怠るようなことがあってはならない、と彼は思った。要するに、万事は自分の心がけしだいなのだ。 P.22

(6) オンドル(家の床をあたためる韓国特有の暖房設備)の火を燃やすために薪(まき)を斧(おの)で割るのはつらい仕事であったが、基文(ギムン)にとって、それは貴重な体験だった。おかげで彼は机に向かって本ばかり読んでいた自分から脱皮し、困難に耐える力を自然に身につけることができた。

(7) 英語の授業の最初の何日かはアルファベットを習うのに忙しかった。 P.31

20 回以上書いてみて、基文(ギムン)はようやく一字ずつの文字の区別がつくようになった。 P.32

(8)英語の先生の宿題はいつも「20 回」だった。単語にしる、文にしる、その日に学んだことは必ず 20 回ずつ書いてくることが要求された。 P.32

(9)基文(ギムン)は、帰宅するとすぐ宿題に取りかかった。同じことを 20 回もくりかえすとえてして退屈してしまいがちだが、まだ英語に慣れていなかった彼には、それがたいそう有益に思われた。何度も単語や文を書いていると、いつの間にか、暗記してしまうのだ。
すると、英語の文章の内容が徐々(じょじょ)に頭に入ってきた。 P.33

(10)中学 3 年の冬休み、基文(ギムン)は古本屋で「タイム」を小遣いをはたいて買い求めた。中学生の英語水準では単語の大部分がはじめて目にするものばかりだった。しかし、彼はめげることなく、辞書を片手に、一行ずつたんねんに読み進めた。たとえ数行でも、内容を理解できることを知って満足を覚え、自分が英語の雑誌を読んでいるという事実喜びを感じた。 P.33-34

(11)高校生になり、(豚の飼育など)いろいろ家事を手伝うようになってからは、時がどんどん過ぎていき、勉強する時間が足りなくなった。だが、彼は、余ったわずかな時間をうまく使えば、素晴らしい成果をあげることを体得した。たとえば、授業の合間の 10 分間の休み時間をぼんやり過ごさずにちょっと予習と復習をしておけば、ずっとたやすく授業を理解することができた。余暇を有効に利用するということは、余った時間をできるだけ無駄にしないで、時間を管理することを意味する。つまり、どんなときにも、どんなことについても、常に最善を尽くすことを意味する。
わずかな時間を惜(お)しんで勉強すること。
うまずたゆまず努力すること。 P.42

(12)高校 2 年生の英語の先生、金(キム)先生から、「よくやっている。その道をまっすぐ進め」という言葉をかけてもらって彼は力が湧(わ)いてくるのを覚えた。 P.44

(13)「試験用紙がソウルの生徒と地方の生徒を差別するわけではない」と自分に言い聞かせ、黙々と(赤十字のアメリカ研修プログラムの)試験に取り組んだ。 P.51

(14)ケネディ大統領は、「アメリカは諸君を歓迎する。赤十字の精神を忘れずに、お互いの国の発展に努力しよう」という内容の短い演説を行った。
ケネディ大統領は、基文(ギムン)に「きみの夢は」と問いかけてくれた。基文(ギムン)はためらうことなくさっそうと答えた。「外交官です」。それを聞くと大統領はにっこりと笑った。その瞬間、彼の心にきらりと鮮明にひらめいたものがあった。不思議な気分であった。「そうだ。僕の夢は外交官なんだ」。彼は心の中で再びくりかえした。 P.61

(15)もし、金(キム)先生のような地方の高校ではまれに見る熱血漢の英語教師がいなかったら、もし 18 歳でアメリカを訪問する機会に恵まれなかったら、そして、もしケネディ大統領に会見できなかったら、基文(ギムン)の夢は固い種子のまま発芽することなく、地中に埋もれ、朽(く)ち果ててしまったかもしれなかった。どのような素晴らしい夢であろうと、水を注がなければ、けっして成長することはない。幸運にも、種子にたっぷり水を注いでくれる人びとに出会った彼は、自分の夢の幹と葉を豊かに育てることができた。 P.68

(16)成績を向上させる基文(ギムン)の秘法とは、勤勉にノートを取ることだった。几帳面に筆記することによって、学んだ知識を整理して理解するだけでなく、いつでも取り出して、ふたたび勉強しておくのだった。

(17)几帳面にノートを取るという点で、彼と肩を並べられる者はいなかった。正確に整理されたノートのおかげで、彼の成績は常に上位だった。体育の成績を除いて、彼はすべての科目で A を取り、ソウル大学の優等生に選ばれた。 P.76

(18)基文(ギムン)は、常に手帳とペンを肌身離さず持ち歩いた。どのような情報でも、それに接するや否や、直ちにメモを取り、随時に整理することが習慣になった。人間の頭脳を大統領に例えるならば、彼の筆記力は卓越した補佐官の役目を果たした。 P.78

コメント

この文章をお書きになった藩基文(バン・ギムン)さんは、韓国の学院(日本の予備校・塾にあたるもの)で熱心に勉強なさったとお聞きしています。

皆様も藩基文(バン・ギムン)さんと同じように頑張ってお勉強して下さい。

(林明夫)

- 2008 年 11 月 8 日記 -

御参考

充実した人生を送るためにはどうしたらよいか。私は、「論語」を読んで考えることが大事と思います。中学生や高校生のように「論語」をはじめ「古典」に親しむことも、充実した人生には大切と考えます。

CRT 栃木放送 『開倫塾の時間』

2007年9月29日(土)放送内容速記録

充実した人生を送るために

- 「論語」を読んでみよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴き頂きありがとうございます。

内閣総理大臣が代わり、福田康夫さんになりました。福田総理には、構造改革を断固推し進めて頂きたいと希望します。

(1)人間は自然に優しくすることも大事です。栃木県をはじめ日本には森や森林がたくさんあります。国土に占める森林・森の面積の割合は、フィンランドに次いで世界2位の多さです。おそらく、栃木県も、全面積の三分の二くらいは森や林に囲まれていると思います。ところが、その森や林を手入れする人がほとんどおらず、大変な状況になっています。そこで、国や自治体に私がお願いしたいのは、森や林や山を守ることも是非やって頂きたいということです。それらを守ることを、公共事業としてやることも大事だと思います。

(2)私は、基本的には「小さな政府、小さな自治体」を目指すことが大切と考えますので、「公共事業」は必要最小限にすべきだと確信しています。ただ、森や林を守るための公共事業は「国家百年の計」として、「教育」と同様推し進めるべきと考えます。

(3)昔は、森林で働く人が50万人くらいいました。しかし、今は5万人を切っているそうです。5万人では、日本中の森林や山を守ることはとてもできません。ですから、昔と同じように50万人にする、あるいは100万人にして公共事業としてやって頂ければ、日本の自然を守る上でも大いに役に立ち、また、ばらまき行政などといわれることもなくなります。このような形で、価値のある予算の使い方をして頂ければ有難いと思います。

2. 充実した人生を送るために - 「論語」を読んでみよう -

(1)さて、今日は、久しぶりに、孔子の教えといわれる「論語」について少しご紹介させて頂きたいと思います。

足利市には、「足利学校」という日本最古の学校があります。足利学校では、儒教がとても盛んに勉強されていたそうです。現在、史跡足利学校のお土産(おみやげ)として「論語抄」、論語をまとめたものが売られています。「論語抄」は、足利学校の研究員で、かつて足利高校で漢文の先生をなさっていた須永美知夫先生がまとめられたものです。わかりやすく、また、読みやすい素晴らしい内容です。私は、その本が大好きで、いつもカバンの中に入れて読ませていただいています。

(2)そこで、今日は皆さんとご一緒に、須永先生の「論語抄」をテキストにして論語を勉強してみたいと思います。

論語には、「子曰(しい)わく、(子曰わくとは、孔子が言ったという意味です)学びて時に之(こ)れを習(なら)う、亦(ま)た説(よろこ)ばしからずや。(学問をして、その学んだところを復習できる機会を逃がさずに、何回も何回も繰り返し復習すると、学んだところのものは、自分の真の知識として完全に消化され、体得される。これはまた、なんと喜ばしいことではないか。)」という出だしがあります。

次に、「朋有(ともあ)り遠方より来(きた)る、亦た楽(たの)しからずや。」とあります。これは、文字の上では「友達がいて遠くから来た。これは本当にうれしい。」という意味ですが、「このようにして、知識が豊かになれば、道を同じくする友達が遠い所からまでもやって来て、学問について話し合うようになる。これはまた、なんと楽しいことではないか。」という意味があります。

さらに、「人知(ひとし)らずして慍(いきどお)らず、亦た君子(くんし)ならずや。」と続きます。これが大事です。「いくら勉強しても、この自分を認めてくれない人間が世の中にはいるものだ。そういう人がいたとしても、慍らず(怨むことはないよ)。それでこそ、学問も徳も共にすぐれた君子ではないか。」という意味です。

これらも、素晴らしい文章ですね。

そのあとには、「子曰く、巧言令色(こうげんれいしよく)鮮(すくな)きかな仁(じん)。」という、とても有名なことばが続きます。「巧言」とは巧(たく)みに言葉を飾るということで、「令色」とは巧みに顔色をとりつくろうということです。このような人物には、「鮮きかな仁、ほとんど仁(人間愛)の道はないといってもよい。」という意味です。つまり、言葉を飾ったり、顔色をとりつくろったりしないほうがよいということ、孔子は教えてくれているわけです。

このほかにも素晴らしい文章がたくさんあります。その中でも私が好きなのは、「子曰く、吾十有五(われじゅうゆうご)にして学(がく)に志(こころざ)す(孔子は言いました。私は15歳で学問に志しました)。三十にして立つ(30歳で、思想も見識・ものの見方も確立しました)。四十(しじゅう)にして惑(まど)わず(40歳で、心の惑いもなくなりました)。五十にして天命(てんめい)を知る(50歳で、天から与えられた自分の使命・ミッションを自覚しました)。六十にして耳順(みみしたが)う(60歳で、何を聞いても耳にさからうことがなくなり

ました)。七十(しちじゅう)にして心の欲(ほっ)する所に従えども、矩(のり)を踰(こ)えず(70歳になると、自分の欲望のままに振る舞っても、その行動が道徳からはずれることはありませんでした)。」という文章です。

3. おわりに

私は論語が大好きで、時々読んでおります。皆様も是非論語に親しんで頂き、論語を友達にして、いつもいつも読んで頂きたいと思います。そうすると、充実した人生が送れると思いますので、今日はその一節を紹介させて頂きました。

- 2008年11月20日加筆 -

御参考

私は、バングラデシュの貧しい人々に少ないお金を貸して女性の自立を助けているノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌスさんの講演を聴き、とても感激しました。この運動は、マイクロ・ファイナンス(少額融資)という形で全世界に広がっています。

CRT 栃木放送 『開倫塾の時間』

2007年7月14日(土)放送内容速記録

女性は格差をなくせるか - アジアで日本で - - ムハマド・ユヌス「グラミン銀行総裁から学ぶこと」 -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴き頂きありがとうございます。

東京の渋谷のすぐ近く、表参道にある青山学院大学の前に国連大学(正式には「国際連合大学」、英語では United Nations University と言います。)があります。そこで、先週の土曜日に「女性は格差をなくせるかーアジアで日本でー」というシンポジウムがありました。読売新聞社と NPO 法人「女性人権機構」、外務省、国連大学の共催で行われました。

そこに、ノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌスさんがいらっしゃって、素晴らしいお話をして下さいました。そこで、今日の「開倫塾の時間」では、その感動を皆様と一緒に分かち合いたいと思い、ムハマド・ユヌスさんのお話を少し紹介させていただきます。

2. 女性は格差をなくせるか - アジアで日本で - - ムハマド・ユヌス「グラミン銀行総裁から学ぶこと」 -

(1)ムハマド・ユヌスさんは、バングラデシュにあるグラミン銀行の総裁をなさっている方です。

ノーベル平和賞を受賞なさった功績を少し紹介します。ムハマド・ユヌスさんが住んでいらっしゃるバングラデシュは、ムハマドさんが大学で経済学の先生をなさっていた 1974 年頃に非常に大きな水害に見舞われ、何十万人にもものぼる方々がお亡くなりになりました。ムハマド・ユヌスさんは、その当時、学生たちに、経済理論というのはあらゆるタイプの経済問題を解決してくれるものだと一所懸命に教え、エレガントな理論に夢中になっていました。しかし、教室から一步外に出て現実の世界を目にすると、どのようなよい人も無慈悲に踏みつけられているのを見て、打ちのめされたそうです。生活状況が非常に厳しくて、一つかみの食べ物すら手に入れることのできない人たちがたくさんいて、そのためにお亡くなりになった方も多いいことを見たからです。

(2)そこで、ムハマドさんはハッと気がついて、実際に村ではどのような生活をしているのかを知るために、学生たちと一緒に村に調査に行きました。ある村では、本当に生活が厳しくて、42 世帯もの人々が、お金を貸す人からお金を借りていたそうです。実際にどのくらいのお金を借り

ていたかを調べると、42 世帯合計でアメリカドルで 27 ドルにも満たない金額だったそうです。失礼な言い方ですが、少ない金額しか借りていなかったにもかかわらず、実態は非常に厳しい生活であったそうです。

そこで、ムハマドさんは、27 ドルを渡して、これを 42 世帯の人たちに貸してあげるようにしました。これで借りているお金を返し、その上で自分たちで作っているものを自由に少しでも高く売れるようにする、つまり生活の自立への援助をしたのです。それがきっかけで、小さいお金（少額）を女の方や貧しい方にお貸しするようになったということです。

(3)ムハマドさんがおっしゃるには、男の方に小さなお金を貸すと乱暴な使い方をしてしまうそうです。例えば、それでお酒を飲んだり、友達におごってしまったりして簡単に使ってしまう、あつという間になくしてしまうのだそうです。

しかし、女の方に小さなお金を貸すと、まずそのお金で借金を返すのだそうです。そして、自分で一所懸命仕事をし、得たお金で、子どもたちを学校に行かせます。子どもたちが教育を受けられるようにしてから、働いて得たお金を小さな家を造ったり食料を得たりする代金にあてる。このように、非常に堅実なお金の使い方をします。お金を返せない人はほとんどいません。99%の方は必ず返すそうです。小さなお金ですから、一所懸命こつこつやれば返せます。そうすると、自立もできるようになります。それまで村の人たちが借りていたお金は高い金利のものが多く、中には 10 日間で 10%の金利を取る人もいたそうです。借りているお金が小さいので、金利が高くてよくわからなかったり、読み書きのできない方も非常に多いので、よくわからないうちにお金を借りてよくわからないうちに返し、よくわからないうちに大変な状況になってしまうということも多かったようです。

(4)そこで、ムハマドさんは、そのような状況を打ち切るために、グラミン銀行を設立しました。そして、グラミン銀行から小さなお金を借りて、村の人たちにとっては大変な借金である高い金利のお金を返させるようにしました。また、自立のためにお金を使えるようにしました。これで、たくさんの方が助かったそうです。このようなことが認められて、ムハマド・ユヌスさんはノーベル平和賞を受賞なさいました。小さなお金を貸すことをマイクロ・クレジットというそうですが、この運動は世界中に広まりつつあるそうです。

(5)今、小学校や中学校に行っている子どもたちを、次に高校や大学に行かせるための student loan（スチューデント・ローン）、つまり学費を貸すようにしたり、3 万円か 5 万円で小さな家が建つので、小さな家を建てるためのローンを貸すような仕事もしているそうです。これは、バングラデシュの方々が自分自身の力で立ち上がるための大きな貢献となっています。

3. おわりに

今日は、国連大学で開かれた「女性は格差をなくせるかーアジアで日本でー」というシンポジウムで、バングラデシュのグラミン銀行総裁を務めるムハマド・ユヌスさんのお話をお聴きしましたので、皆様に御紹介させて頂きました。

皆様はどのようにお感じになられたでしょうか。

- 2008 年 11 月 20 日加筆 -

御参考

この文章は、社団法人経済同友会(東京)からの派遣講師として、埼玉県立草加南高校で行った授業の資料です。御参考までにご覧下さい。

埼玉県立草加南高校
出張授業資料

2008年11月10日(月)
13:30 ~ 14:30
埼玉県立草加南高校

今、高校生として学ばなければならないことは
- Learning To Learn(学び方を学ぶ)能力を身に付けよう -

開倫塾

林 明 夫

(<http://www.kairn.co.jp/>)

1. はじめに

(1) 仕事

株式会社開倫塾代表取締役社長 (学習塾)
マニー株式会社 社外取締役 (手術用縫合針製造)
宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授

(2) 社会活動

経済同友会...「政策提言」
栃木県社会教育委員
開倫ユネスコ協会...人間の安全保障 (Human Security ヒューマン・セキュリティ)の推進「心
の中に平和の砦(とりで)を築こう」
(ア)保護 (protect プロテクト)
(イ)能力強化 (empowerment エンパワーメント)
特老...理事
不登校であった生徒のための高校...評議員

(3) 執筆

コラム(新聞、雑誌)
ラジオ
講演、スピーチ

ブレア首相(元イギリス首相)

どんな小さなスピーチにも必ずメモをつ
くり、すべて暗記してから行った。

(4) 私の使命(mission ミッション)

成功の実現に貢献すること
持続可能な社会の形成に寄与すること

2. 今、高校生として学ばなければならないこととは

(1) 現代社会に即応した「鍵になるような基本的能力(Key Competency キー・コンピテンシー)」を身に付けること

「知識基盤社会」(Knowledge Based Society ナレッジ・ベイスト・ソサイアティ)

↳ 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

(ア) 小学校・中学校・高校・大学・短期大学・専門学校・大学院などで学ぶ内容

↳ 学校で学ぶことはすべて重要。正確に「理解」と「定着」をさせ、「応用」力を身に付けること。

(イ) コンピュータなどから得られる情報

↳ 「コンピュータ」なしでは仕事・社会活動は十分にできない。コンピュータは、必ず身に付けること。

(ウ) 高度専門職業人として、専門分野の高度な知識・情報・技術を身に付けること。

「グローバル化した社会」 (Global グローバル)

↳ 「多様な集団で交流する能力」(Diversity ダイバーシティ)

(ア) 言語、文化、価値観(大切にするもの)、生活様式(Way of Life)、育った環境が全く異なる人々の集まりの中で交流できること。

(イ) 多様性をそのまま認めることができるのも能力。

自分の意見と全く異なる意見を、自分の意見と同様大切にすること。「寛容(Tolerance トランス)」

(ウ) 世界の共通語としての「英語」によるコミュニケーション能力は欠かせない。

「超高齢化社会」「資源の限られた社会」

↳ 「自律的に活動する能力」(Self-Control セルフ・コントロール、自制心があること)

(ア) 行動は自由。^{ただ}但し、「自己責任」「自助努力」が求められる。

(イ) ルールの中でのプレイが求められる。何がルールかを知ること、身に付けることが求められる。

・ 法律に反した行動は認められない

犯罪行為... 刑罰の対象	... 刑事責任
不法行為... 損害賠償の対象	... 民事責任

(法とは何か。法律とは何かを学ぼう)

・ 道徳に反した行動は評価されない(自分がされていやなことは相手にもしないこと。)

(道徳とは何か。法律とどう違うのかを学ぼう。)

(ウ) 高い志(こころざし)をもつこと。高い志は持続させること(持続する志)。

・ 「歴史における個人の役割」とは何かを考えよう。

・ 何のために今、学ばなければならないのか。大学・短期大学・専門学校に行って何を学ぶのか。高等学校や高等教育機関を卒業後どのような仕事に就きたいのか。どのような社会活動、生活をしたいのか。何のために働くのか。何のために社会活動をするのか。何のために生きるのか。どのように生きるのか。

↳ 高校生であれば、自分の一生を真剣に考えよう。

* 何のために働くのか

・ 「生活できるだけの収入を得るため」	} これを日本における Decent Work(デ イセント・ワーク)という
・ 「仕事を通して自己実現するため」	

(エ) 「羨(しつけ)」とは、「美しい立居振舞い(たちいふるまい)」と「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」をいう。高校生は美しく生きよう。

(2) 鍵となるような3つの基本的能力を身に付けるための前提となる能力とは

「学び方を学ぶ(Learning To Learn ラーニング・トゥ・ラーン)能力」

↳ 自分なりの学び方を身に付けていること。「自己学習能力」ともいえる。

例：例えば、私は学習を3つの段階(ステップ)に分けて、1つ1つ丁寧にステップを踏むことで、ものごとを学ぶことをお勧めしている。「学習の3段階理論」と名付ける。

第1段階 「うんなるほど」とよくわかる、納得する段階 「理解」という。

「理解」は、学校などの「授業中」に行われることが多い。そこで、「授業の受け方」が「理解」のためには重要となる。

- ・先生の目を見て、一語一句聞き逃さないという真剣な態度が大事。(手は机の上に置く)
- ・大切なことはすべて書き取り、後で整理をして、すべて覚えること。(ノートの取り方が大事)
- ・授業による理解の妨げとなることはしない。(欠席・遅刻・早退・忘れ物・おしゃべり・居眠り・携帯電話・徘徊(はいかい)・ポーツとしていること・授業外のことをすることは厳禁)

「理解」は自分一人でもできる。(自学自習による「理解」)

・教科書はどんどん予習すること。「予習をして、わからないことをはっきりさせて授業に臨むこと」。辞書を用いて意味調べをすること。問題はすべて解いてみること。

* 音読練習・書き取り練習まで、予習の段階で終了させておくこと。

・一度授業を受けたことでも、十分わからなければ、授業終了後にもう一度教科書などを勉強し直すこと。「辞書」や「参考書」を用いること、授業中に取った「ノート」を読み返すことができるのも大切な「能力」。

* 図書館を最大活用して調べることも大事な「能力」。

* 社会に出てからの勉強は「自学自習」が多い。(「高等教育機関」でも「自学自習」が大事)

第2段階 一度「うんなるほど」と十分「理解」した内容をスミからスミまで正確に身に付けること 「定着」という。

「定着」は、自分一人で行わなければならない。誰も助けてはくれない。(一度「理解」したのも、時がたてば大半は忘れ去ってしまう。忘れないうちに自分の力で「定着」させることが、学力向上の絶対条件。知識を身に付ける上で欠かせない。)

1. 一度「うんなるほど」と「理解」したことを、スラスラ正確に言えることが第一。そのために一番効果があるのが、「教科書」や「ノート」を「声を出して何回も読むこと」

↳ 何十回、何百回も「音読練習」を。《昨日まで学んだことをまず音読してから、今日の範囲を学ぶことは絶対の効果を発揮する。「短期記憶」を「長期記憶」にする》

2. スラスラ言えるようになった内容を正確に楷書(かいしょ)で、つまり教科書の書体で、点や画を略したり続けたりしないで書くこと。英語のスプリングも同様。

↳ 「書き取り練習」を。(書けるようになるまで何十回、何百回も) 最低でも20回は書くこと

3. 一度解き方やなぜそのような解になるのかを十分に「理解」した計算や問題は、問題を見た瞬間に条件反射でスラスラと解答が出るまで「計算・問題練習」を繰り返すこと。(最低6回)

これを定着のための「3大練習」といいます。

* どのような学校でも、学校の定期試験はこれだけで 100 点が取れる。

- ・「ノート」を正確に覚えることは欠かせない。そのために、「授業中」は手が痛くなるほどノートを取ること。自分で調べたことは、すべてノートにメモし続けること。覚えやすいように「ノート整理」をすること。
- ・「定着」の段階でも、少しでも意味不明な語句は「辞書」「参考書」で確認すること。「地図」「年表」「条文集」「理科」などの資料集にもどんどんアクセス(接近)し、自分のものにする。
- ・中学・高校時代の教科書、ノート、参考書は一生の宝、絶対に処分しないで時々読み返すこと。そうすれば、一度身に付けたものなので一生身に付いている。もっともっと深まっていく。中学校や高校の勉強内容は一生役に立つものが大半。役に立たないものは一つもない。

第 3 段階「理解」「定着」した内容を、試験や社会で役立てることができる。「応用」という。

「応用」には、「試験で合格点が取れる」とこと、「社会で用いることができる」とことの 2 つがある。

1. 試験(入学試験、検定試験、国家試験、採用試験など)で合格点を取るためには、「過去に出題された問題(過去問)を 5 ~ 15 年分、自分の力で 5 ~ 6 回解くこと」。
2. 実際の社会で役に立てるためには、「失敗を恐れずどんどん使ってみること」。

「読書により、熟慮、熟考、省察、思慮深さ」が身に付いていること。

(ア) **高校生は本を読もう** 本は深く読むこと。行間も読むこと(作者が言いたいこと Read Between Lines)

本は 5 ~ 6 回読む。印象に残ったことは「書き抜き読書ノート」に書き抜き、繰り返し音読する。

(イ) 高校生のうちに「文庫本」「新書本」に親しみ、「ゆっくり」「ていねい」「大量」に読もう。(週に 1 ~ 2 冊は...)

(ウ) **高校生は新聞を読もう(英字新聞も読もう)** 「新聞を読んで考えよう」。高校生は毎日、1 時間以上新聞を読んで考えよう。

* 「世界同時株安」「日本の円の独歩高」「アメリカ合衆国オバマ新大統領誕生」「日本でも衆議院総選挙近い」「行財政改革、公務員改革、年金改革...」すべて自分たちの今日の生活、明日の生活、10 年後・20 年後・50 年後の生活に関連する。

* 新聞を読んで身に付くのは「批判的思考能力 (Critical thinking クリティカル・シンキングの能力)」。新聞は現在の問題点を示す。「あるべき姿」をどうつくるのかは、読者の責任。(新聞を読んでいれば、オレオレ詐欺の被害者にはなりにくい。目の前に起こっていることを「批判的」に見ることが大事。)

御参考まで

大学教育の現状

- 問題 -

- (1) 学力不足の大学生
 - (2) AO 入試の弊害
- { 勉強をしない高校生が大学進学をしてよいのかという批判が社会にはある。そのように言われないように、高校時代にはしっかり勉強しよう。 }

- 対策 -

- (3) 補修教育(リメディアル教育)
 - (4) 初年次教育
 - (5) キャリア教育
- { 放送大学を }
{ 活用しよう }

高校生はしっかり勉強しよう

3 . おわりに - 私の好きな言葉 -

(1) 「健康第一」(林明夫)

心の健康

身体の健康(体力を身に付けよう)

* 「タバコ」はダメ。大麻・覚醒剤は絶対にダメ。

(2) 「いつまでも若々しく生きる」(中村天風先生)

(3) 「会った人は皆友達」(京都一燈園石川洋先生)

「捨てなければ得られない」

「よいことをして忘れる」

「あなたは本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」

(4) 「離見(りけん)の見(けん)」(世阿弥 - 風姿花伝(花伝書) -)

(5) 「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心に平和の砦(とりで)を築かなければならない」(ユネスコ憲章、前文)

(6) 「目には遠いが心は近い」(インドのことわざ)

(7) 「教育ある人とは一生勉強し続ける人」(ドラッカー先生)

(8) 「一生勉強、一生青春」(足利市在住の書家 相田みつを先生)

(9) If you can dream, you can do it!(もしあなたが夢を見ることができれば、あなたはそれをする
ことができる)

* 高校生のうちに、将来一人で生活するときに必要なことを少しずつ身に付けておくことを、最後にお勧めします。

例： 1 . 買物の仕方

8 . 収入の中で生活をする方法

2 . 食事の作り方(料理の方法)

9 . 外食の仕方

3 . 部屋のそうじの仕方
(片付け方)

10 . 手紙の書き方

4 . ゴミの出し方

11 . 電球の換え方

5 . トイレのそうじや風呂場のそうじ方法
(トイレのなおし方)

12 . パソコンの使い方

6 . せんとくの仕方

13 . ストレスの解消方法

7 . 1日の過ごし方

14 . 図書館の利用方法

15 . 公園、美術館、博物館などの利用方法

16 . 市役所、区役所などの利用方法

Q1 皆様の好きなことばは何ですか。

(1) _____

(2) _____

Q2 ご質問、ご批判、コメント、感想をお書き下さい。

(1) _____

(2) _____

御清聴を感謝申し上げます。

- 2008年11月10日6:00.am記 -